

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2022.4



本をまもる 保存・修復の道具（終）

『在伯日本移民歴史調査記録』——ガラス乾板のデジタル化

国立国会図書館で働いています Season2

# 国立

# 国会

# 図書館

# 月報

NO. 732

APRIL 2022

CONTENTS

1 『花隠桜花帖』 — 「三熊派」 広瀬花隠の桜たち

今月の二冊 国立国会図書館の蔵書から

6 本をまもる 保存・修復の道具

④調べる (終)

12 『在伯日本移民歴史調査記録』

— ガラス乾板のデジタル化

16 国立国会図書館で働いています Season2 no.7

20 電子展示会「近代日本人の肖像」

24 館内スコープ

「極秘」の任務?

25 本屋にない本

『和歌山県人ブラジル移住100周年記念誌』

26 NDL TOPICS



表紙：  
「猿澤池畔夜櫻圖」土屋光逸 画  
『浮世絵界』1巻2号 1936.4  
21cm< 請求記号 雑 33-79>

# 『花隠桜花帖』 —「三熊派」 広瀬花隠の桜たち

石田 暁子



12点の桜画より山桜。

## 花隠桜花帖

広瀬花隠 自筆 1帖; 21×31cm

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2539130>

江戸時代中期から後期の京都に、桜の絵を専門に描く画家たちがいました。

その始祖は『近世畸人伝』『続近世畸人伝』の著者として知られる、三熊思孝（1730・1794）です。思孝の絵では、桜を鳥獣や人物、山水などと組み合わせることなく、単独で描くことが特徴です。また、桜の品種や名木の描き分けに努めつつ、本草書や園芸書のような客観的描写とは異なる、情緒的な桜の姿を表現しようとしています。この描法は、妹の三熊露香（1801頃）、弟子の広瀬花隠（1772頃・1849頃）、露香の弟子の織田瑟々（1779・1832）に受け継がれ、「桜画」としてもはやされました。美術史学者の今橋理子氏は、彼らを「三熊派」と名付けています。

今回ご紹介する『花隠桜花帖』は、三熊派のひとり、広瀬花隠による画帖です。折本形式の台紙に、絹本に描かれた12点の桜画が貼り込まれています。

桜は1点に1種ずつ、折枝の状態であるいは画面の外側から差し出るように描かれています。三熊派の桜は、淡く描かれた幹や枝の上に白い花が浮き上がり、しばしば雪のようには見えませんが、本画帖における花隠の桜も、朽葉色の絵絹の上ではほの白く、薄明に浮かんでいるかのようなようです。



(右) 表紙、(下) 垂枝(しだれ)桜。



画面には大きく余白がとってあり、この余白が鑑賞者に桜の美しさだけでなく、周囲に広がる空間の豊かさをも感じさせてくれます。ですがこの余白には本来、別の意味もあつたかもしれません。

平安時代の公卿で、桜を愛するゆえに「桜町中納言」と呼ばれた藤原成範(1135・1187)。花隠は彼を崇敬しており、かつて洛東に存在したという、成範を祀る「桜宮」の再建を宿願していました。そしてその宮に飾るため、公家諸侯を廻り、自身の描く桜花三十六品<sup>(2)</sup>に寄せる和歌を募っていたのです。

肥前平戸藩主の松浦静山(1760・1841)は、人を介して花隠より和歌の揮毫を依頼された顛末を、随筆『甲子夜話』に記しています<sup>(3)</sup>。さらに『続甲子夜話』には各家より寄せられた和歌三十六首を転記し、花隠の語る「桜宮」勸進の委細を記しています<sup>(6)</sup>。この話は夙に有名で、参考文献に挙げた山田孝雄氏『桜史』や今橋理子氏『桜狂の譜 江戸の桜画世界』にも詳細な説明があります。花隠は少なくとも「堂上方三十余君、諸侯方百余君」より画賛(絵に添える文や詩歌)を集めることができたとのことですが、『花隠桜花帖』の作品が持つ余白もまた、そこに名家の賛を待つものであつたのかもしれない<sup>(7)</sup>。



(右から) 晚桜、明仄（あけぼの）桜、有明桜。

「夜明け」に関する名を持つ桜3種を並べてみました。「晚」は日の出前のほの暗い頃。後水尾天皇（1596-1680）の勅銘で「明星桜」とも称し、宮中にもあり大輪中の大輪とのこと。「明仄」は、ほのぼのと夜が明け初める頃。やはり後水尾帝の勅銘で、「かすみ行松は夜ふかき山の端にあけほのいそく花の色哉」の御製<sup>8</sup>により、この花のあった鞍馬口閑臥庵（かんがあん）は「曙寺」とも呼ばれます。「有明」は、月が残っているうちに夜が明けること。ほかの桜が終わる頃に咲き、卯月桜の別名もあるといえます。『六々桜品』<sup>9</sup>の有明桜の図に寄せられた、万里小路建房（までのこうじたけふさ、1780-1846）の歌「月のこるひかりをそへてさくはなにあげ行庭もかほる朝かせ」は、明け方に見る桜の清々しさを鮮やかに表現しているようにみえます。

(参考)『古今要覧稿』の「桐ヶ谷」。  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2552372/17>




○怡顔齋曰一名八重一重一名車返花中才一品也枝の中八重と一重と雜り受其中小八重多く一重は少くはた中似く色は白くはた八重止相谷ハ八重一重相雜えはま鎌倉相谷より出故名付成古名を以て花を一人ハ八重取りと云又一人ハ一重取りと云後梨子びく二人東返返規ふ一本ハ八重一重

『怡顔齋櫻品』の「桐谷」。  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536945/49>



八重単（やえひとえ）桜。「桐ヶ谷」「車返」ともいわれ、一枝の中に八重と一重の花が入り混じって咲きます。松岡怒庵（1669-1747）『怡顔齋櫻品（いがんさいおうひん）』には「車返」の名の由来として、この花を見たふたりが、ひとり八重、ひとりは一重と言い論争となったため、乗った車を桜の場所に戻して確かめたという説が紹介されています。『古今要覧稿』（囲み記事参照）には、『六々桜種類』によるとして、「いまた爛漫せざるうちより一重のものかつちるその風情たくひなし」と記載されています。

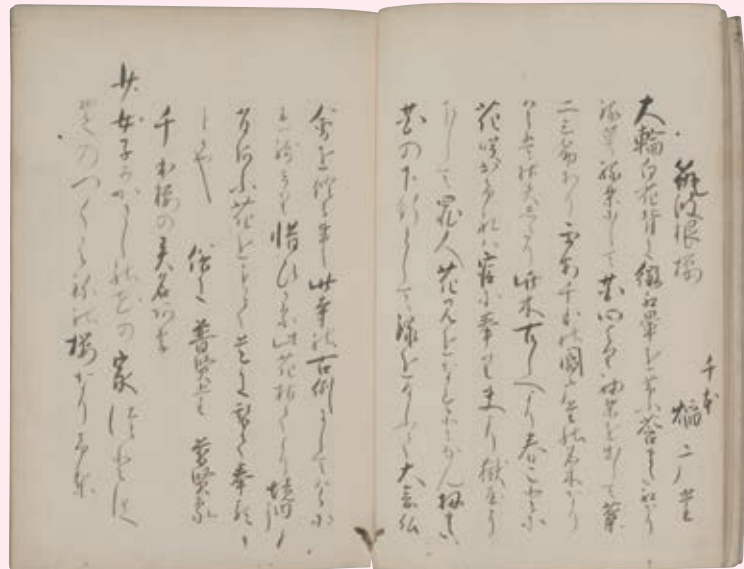
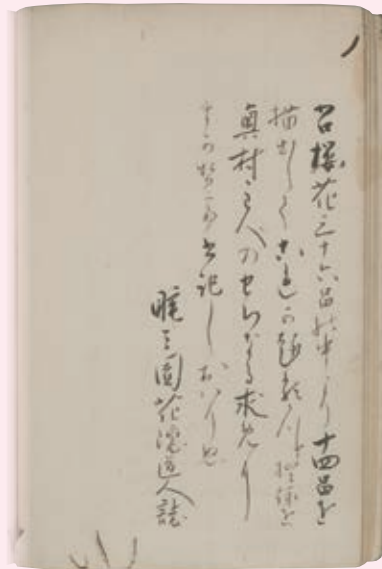
## 『美屋古の春』

花隠は桜の品種や名木に関する解説も行っています。当館所蔵の『美屋古の春』は花隠自筆と思われる桜品解説で、花洛14ヶ所の名花を取り上げています。

解説文の内容は、国学者の屋代弘賢（やしろひろかた、1758-1841）が編纂した百科事典『古今要覧稿』に引用されている『六々桜種類』という資料の記述とほぼ一致します。

本資料には旧蔵者である水荃磐樟（みずくきばんしょう、1855-1907）の識語があり<sup>10</sup>、本書について「さくら戸の翁」に問うつもりだと記されています。「さくら戸の翁」とは、医師で国学者かつ桜画にも巧みな、桜戸玉緒（1828-1896）と思われる。『美屋古の春』は都立中央図書館加賀文庫にも写本の所蔵があります（請求記号 加03978）が、その表紙に描かれている桜は玉緒の描くものに似ており、磐樟と玉緒が作成した写しである可能性もあります。

『美屋古の春』 広瀬花隠 著 写<請求記号 212-326>  
（右から時計回りに）表紙、本文、跋文と署名。



さて本資料に収められている桜は、地主桜・山桜・常磐桜・筑波根桜・明仄桜・小桜・路頭桜・浅黄桜・垂枝桜・八重単桜・有明桜・暁桜の12種ですが、中でも珍しいのが「路頭桜」です。花隠は桜品種の解説書『美屋古の春』（囲み記事参照）において、この桜は洛西梅ノ宮<sup>(1)</sup>にあり、「伊勢桜」の一重のものであるとしています。花隠以外による桜図譜においては、品種としてほとんど取り上げられていないのです。

わずかに確認できるのは、「長者ヶ丸白桜亭」関係の資料における記述です。幕臣の久保勝章（1787・1861）は諸国から珍しい桜の品種を集め、青山長者ヶ丸の自邸に植えていました。本草画家の坂本浩然（1801・1853）による『浩雪桜譜（長者丸桜譜）』には路頭桜の図が収録されており、同じく浩然作製の『群桜花譜』でも路頭桜の図が確認できます（左ページ参照）。このほか伊藤篤太郎（1865・1941）の草稿『桜譜』に、わずかに品種名のみ記されていることを確認しましたが、今回調査した限り、このほかの資料の中に「路頭桜」の詳細を見つけることはできませんでした。

久保勝章の没後、青山長者ヶ丸の桜は駒場御薬園に移植され<sup>(14)</sup>、その御薬園も明治維新後に廃止されたようです。花隠の画帖や解説に



大輪にして花陵紅蒼紅なり 伊勢桜のひとつのものにして  
 また殊にあてやかなること一倍なり  
 往通ふころや花にみちとせの さくらのかけは過うかりけり

『美屋古の春』



路頭桜。



(参考) 坂本浩然『群桜花譜』<請求記号 W392-1>中の路頭桜。

- 1 本名を自勝。睡足園の号もあり。狩野派を学んだのち、三熊思孝の弟子となった。
- 2 花隠は師に倣い、数ある桜品種や名木の中から36種を選んで繰り返し描いている。『甲子夜話』所載のものは、元日桜・小桜・手枕桜・枝垂桜・山桜・艶桜・三芳野桜・衣笠桜・虎尾桜・芝山桜・香桜・御園桜・路頭桜・廊間桜・曙桜・八重単桜・地主桜・夕栄・妻紅桜・樺桜・塩竈桜・玉緒桜・筑波根桜・伊勢桜・八重桜・暁桜・漣桜・入相桜・玉桜・法輪寺桜・小緑桜・浅黄桜・普賢象桜・薄墨桜・有明桜・常磐桜であるが、取り上げる桜の種類が多少異なる場合もある。
- 3 本文に「北村師」とあり、江戸幕府の歌学方、北村季文(1778-1850)と思われる。
- 4 巻之七十一。「さくらさくころはそらさへ心してかぜしづかなる花の夕栄」という歌を揮毫している。
- 5 続篇巻之十二。花隠の『六々桜品』(白鹿記念酒造博物館蔵。今橋理子 著『桜狂の譜 江戸の桜画世界』に図版あり)には、花隠の筆でこれらの歌が添えられている。
- 6 続篇巻之八十四。
- 7 国立歴史民俗博物館が提供する「シーボルト父子関係資料データベース」(https://www.rekihaku.ac.jp/up/cgi/login.pl?p=param/pfvs/db\_param 2022.1.31 最終アクセス)では、ミュンヘン五大陸博物館(Museum Fünf Kontinente)が所蔵する、諸家の揮毫が添えられた花隠色紙(資料名『桜花帖』)の画像を見ることができる。

- 8 歌の表記は『都名所図会』拾遺巻之一掲載のものによる。https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2555338/13
  - 9 前掲、注5参照。
  - 10 識語(書物の余白に來歴等を記すもの)では本書を薩摩人有川花隠の作としていますが、墨梅図を得意とした画家、有川梅隠(ありかわばいん、1771-1852)との混同と思われます。
  - 11 梅宮大社。秋里籬島(あきさとりとう、生没年不詳)『都名所図会』巻之四に「四条の西梅津里にあり」として境内図を載せる。https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2555346/34
  - 12 『桜に関する図書解題略 増補』[三好学][編][三好学][大正9] https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1911170
  - 13 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2558154/8
  - 14 『東京市史稿 遊園篇第3』東京市編集・発行 1929 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1915739
- 参考文献  
 三好学 著『桜』富山房 昭13 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1239318  
 山田孝雄 著『桜史』桜書房 1941 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1871222  
 今橋理子 著『桜狂の譜 江戸の桜画世界』青幻舎 2019<請求記号 KC195-M3>  
 今橋理子 著『江戸絵画と文学 <描写>と<ことば>の江戸文化史』東京大学出版会 1999<請求記号 KC126-G11>  
 有岡利幸 著『桜1』法政大学出版局 2007<請求記号 RB197-H51>

よれば、「路頭桜」は大輪爪紅の美しい花である様子。梅宮大社には今でも残っているのでしょうか、いつか見ることができれば嬉しく思います。

本記事ではほかに、本書に収載の桜の中から、心惹かれた図版を選んでご紹介しました。200年以前の京師に咲いた花を、誌上でしばしお楽しみください。



本をまもる

# 保存・修復の道具

## ④ 調べる



国立国会図書館では、所蔵する資料の永続的利用を保証するために、デジタル化などの媒体変換、防災、保存環境の整備、修復といった様々な保存活動を行っています。

その活動で大きな役割を担うのが、収集書誌部資料保存課です。資料保存担当の専門職員が、専門的な判断と技術を必要とする補修・修復を資料の特性や状態に応じて行っています。また、書庫の環境管理や虫菌害対策などの業務にも当たっています。

資料保存課で保存・修復のために使用する「道具」にフォーカスをあてたシリーズも、ついに最終回。ほんの一部ではありますが、文化的資産を残していく活動の様子を垣間見ていただければと思います。



## 温度 湿度 ロガー

データが表示されるタイプを使うと、そのときの温湿度をその場で確認することができます。



資料を長期にわたって利用するためには、保管環境を適切な温湿度に維持し、資料の劣化や損傷を防ぐ必要があります。通常の紙資料ですと、温度22℃程度、相対湿度55%程度が理想と言われています。

温湿度ロガーは、温度と湿度を一定時間ごとに測定し、記録するための機器です。資料を保管している場所周辺の温湿度をモニタリングして、資料保存に適した環境が維持されているかどうかを確認したい時に使用します。他に、温度管理が必要な作業（殺虫処理等）を行う場合にも使用します。

### ● 書庫の温湿度調査



PCにつないでデータを取り出します。



書庫の温湿度を測定するため、一定期間設置しておきます。



その期間の温湿度の変化をグラフで見ることができます。

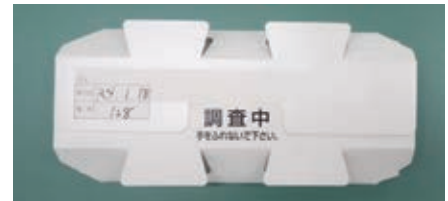
顕微鏡  
実体



資料にとって有害な虫（文化財害虫）が捕獲された場合には、環境改善を図らなければなりません\*。そのため、この実体顕微鏡で、肉眼では分からない小さな虫やその痕跡を確認します。また、資料表面の汚れなどの付着物や、絵具などの劣化具合を観察するのにも使用します。

● トラップ調査

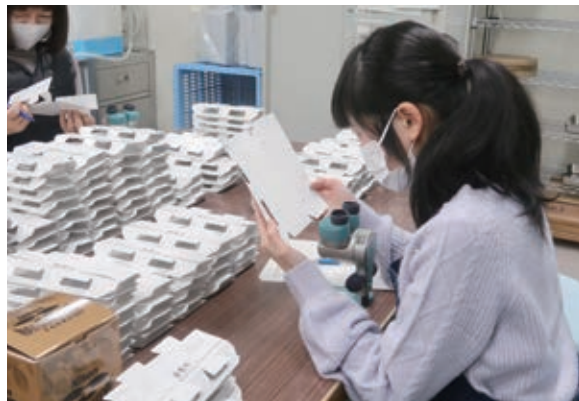
書庫や展示室等に一定期間トラップを設置して、捕獲された虫の種類や数のモニタリングを行います。



トラップです。資料がある場所に、一般的に市販されているような虫を寄せ付けるにおいやエサがある誘引型のトラップを使うと、害虫を引き寄せてしまう恐れがあり、正確なモニタリングができなくなります。そのため、粘着面のみでできた非誘引型のトラップを選択しています。



気になるものがあつたら実体顕微鏡で確認します。



まずは目視で確認します。

\*文化財害虫等については、東京文化財研究所の「生物被害対策ポスター」が参考になります。  
<https://www.tobunken.go.jp/japanese/publication/pestdamages/kabi201803.pdf>

# ATP 検査機器



ATP（アデノシン三リン酸、生物由来の成分）の量を短時間で数値化できる機器です。資料や書架を拭き取った汚れに含まれるATP量を数値化することで、生物由来の汚れであるかどうかを判定し、カビが活性かどうかを判断しています。カビは資料の大敵なので、ATP量が多く活性のカビと判断された汚れに対しては、カビを除去し、死滅させるための処理（クリーニング、殺菌燻蒸等）を行います。

## ATP 拭取り検査

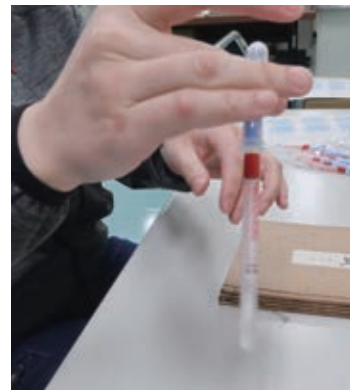
資料や書架に汚れを発見した時は、まず目視でカビかどうかを確認します。ATPはカビ以外の生物でも検出されますが、カビの疑いが強い場合、活性のカビかどうかをなるべく早く判断する必要があるため、ATP拭取り検査を実施しています。



綿棒の先で、汚れが気になる部分をぬぐいます。



15秒後に数値が出ます。得られた数値と資料の状態の両方を考慮した上で、カビ対策の必要性を検討します。



綿棒に付いた汚れを試薬と反応させるため、素早く振ります。



すぐに本体にセットします。

A I D  
ストリップス



A-D ストリップス（青い紙片）の色の  
変化をインジケータ鉛筆（色見本）と  
比較して劣化状態を判断します。

酸に反応する指示薬で、主に  
マイクロフィルムの劣化状態を  
確認するために使用します。  
A I D ストリップスの「A I  
D」は、「acid (酸) detecting (検  
出)」の頭文字をとったものです。  
この指示薬は酸に反応して青か  
ら黄色に変わっていきます。  
T A C (セルロースエステル)  
ベースのマイクロフィルムは、  
加水分解して酢酸を発生し、劣  
化が急激に進んでしまうことが  
あることが分かっています\*。そ  
のため、この指示薬を使用し、  
マイクロフィルムの劣化の度合  
いを把握するようにしています。  
酸性劣化が進んだフィルムか  
ら発生する酢酸は、他の資料に  
悪影響を及ぼすため、隔離等の  
対策を実施します。フィルム自  
体を修復することが困難な場合  
は、媒体変換等による情報の保  
存を検討します。

● マイクロフィルムの酸性度調査

96 時間後、色見本と照合して確認します。酸性度が  
高い場合、より黄色に近い色に変化します。



青い紙片をマイクロフィルムに接するように  
差し込みます。

※国立国会図書館ホームページ「マイクロ資料への対策」もご覧ください。  
[https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/collectioncare/care\\_micro.html](https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/collectioncare/care_micro.html)

# パッシブ インジケーター

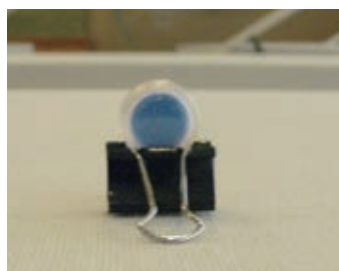


(左) 有機酸用 (右) アンモニア用

当館では、展示ケース等の密閉空間の内部に設置して、資料に影響するようなガスがどのくらい存在しているかを確認するために使用しています。

設置してから4日又は7日後の色の変化を確認することで、密閉空間内におけるアンモニアや有機酸のおおよその濃度を把握することができます。濃度が高い場合、有機酸用は青から緑

# 展示の道具



展示ケース内に、このように立てて設置します。

に、アンモニア用はピンクから黄色に変化します。

各ガス濃度が高めであることが分かった場合は、展示ケースの枯らし作業（ケース内部のガスを放散させるために、強い風をケース内部に送り強制的にケース内の空気を入れ替える、長期間ケースを開放するなど）を行い、環境改善を図ります。

# 照度計



白い半球で光を感知し、モニターに数値が表示されます。



測定部分がコードの先についているタイプもあります。

光の明るさのうち、照度を測定するための機器です。

展示の際は、鑑賞しやすいように、ある程度の明るさが必要です。一方で、資料は光によって退色等の劣化が進んでしまうため、資料に当てる光の明るさや、光を当てている時間を管理する必要があります。

資料の種類ごとの推奨値の範囲を超えないように、展示資料と同じ位置で照度を測定し、光の明るさを確認したり、照明を調節したりするために使用します。

※ここにあげた道具とその使い方はほんの一例です。



# 『在伯日本移民歴史調査記録』

## ——ガラス乾板のデジタル化

### ブラジル移民

20世紀初頭の日本人の主な移民先は、ハワイや北米が中心であったが、日本人を排斥する動きが強まり、日本人の移民が大きく制限されたため、新たな移民先としてブラジルが目ざされた。

明治41(1908)年、笠戸丸に乗船した781人から始まったブラジル移民は、政府が渡航費を支援する「国策移住」の開始とともに本格化し、1920年代半ばから1930年代半ばにかけて、多い年で年間2万人を超える日本人がブラジルに渡った。第二次世界大戦による中断を経て戦後も続いたが、日本の高度経済成長とともに減少し、昭和48(1973)年2月の「にっぽん丸」を最後に、移民船による集団移民は終わりを迎えた。ブラジルに渡った日本人は、戦前だけで約19万人、戦後と合わせて約24万人に上り、ブラジルは今日、約200万人ともいわれる世界最大の日系社会を有する国となっている。

国立国会図書館では日系移民関係資料を収集しており、平成20(2008)年のブラジル移民100周年を機に、電子展示会「ブラジル移民の100年」を公開した。

<https://www.ndl.go.jp/brasil/>



かつて、多くの日本人が、より豊かな生活を求め、移民として海外へ渡りました。代表的な渡航先の一つが、南米のブラジルです。ブラジル移民の玄関口、サントス港があるサンパウロ州の鉄道沿線などに、日本人が集まって暮らす移住地が続々と形成され、日本人移民が家族単位で入植するようになりました。

ブラジルに渡った彼らは、その後どのように生活の基盤を築き、日々の暮らしを営んだのでしょうか。それを知る手がかりを与えてくれるのが、今回ご紹介する『在伯日本移民歴史調査記録』へ請求記号VE511・1vです。

『在伯日本移民歴史調査記録』は、栗

原自然科学研究所が、昭和13(1938)年から昭和15(1940)年にかけて行った、日本人移民を対象とした調査の記録です。同研究所の調査員が、サンパウロ州内に点在する日本人移住地を回り、移民家族の調査記録を作成するとともに、家族写真などの撮影を行いました。

調査記録と写真は、移住地ごとに整理され、調査表(13冊)と写真帖(13冊)にまとめられました。当館では、昭和59(1984)年度に日本の書店を通じて『在伯日本移民歴史調査記録』の原資料を購入し、調査表と写真帖を憲政資料室で公開しています。



## 栗原自然科学研究所

昭和6(1931)年9月、ブラジル移民の神屋信一により、サンパウロ州のアリアンサ移住地で創設された。大正15(1926)年に農業移民としてブラジルに渡った神屋は、子どもや青年が自由に研究できる研究所をつくりたいとの思いから同研究所をつくり、農地開拓のかたわら、大窪文秀、勝浦茂雄、橋本梧郎、酒井喜重らとともに、天体観測、気象観測、動植物、考古学、人類学などの研究に取り組んだ。同研究所が「栗原」の名を冠しているのは、神屋がブラジル渡航前に滞在していた中国で世話になった外務省の栗原正の恩に報いるため、名付けたことに由来する。



(左) 神屋信一。(下) アリアンサ移住地に建てられた研究所。塔部分は天文台。  
神屋信一 著『百姓の書いたブラジル動物記』文芸春秋新社 1957<請求記号 480.49-Ka295h>



『在伯日本移民歴史調査記録』写真帖の表紙。

### 『在伯日本移民歴史調査記録』の資料的価値

『在伯日本移民歴史調査記録』には、約1,200世帯の日本人移民の記録が克明に記されています。調査表には、世帯ごとに、家族全員の氏名、年齢、生年月日をはじめ、本籍、宗教、ブラジルに渡った年月日や乗船した船の名前、日本及びブラジルでの職業、栽培している農作物、最初の配耕地、ブラジル国内の移動歴、土地や家畜の所有状況などが記載されています。これにより、日本人移民の家族構成や生活水準はもとより、ブラジル到着後の転住歴、さらには移住地ごとの特色(栽培している農作物の違いなど)もわかります。戦前のブラジル移民について、同時代にこれほど大規模で詳細な調査記録が残されている例は、他に見当たりません。その資料的価値をさらに高めているのが、写真帖に収録された1,500枚以上に及ぶ豊富な写真資料です。

写真資料の中で最も多いのは、移民家族を世帯ごとに撮影した家族写真です。家族写真といっても単なる記念写真ではありません。身に着けているもの、手にしているもの、背景や周囲に写っているもの全てが、移民の暮らしを知るための貴重な情報です。

また、家族写真を調査表の内容と照らし合わせるにより、そこで生きていた人々の歴史をより生き生きと読み取ることが出来ます。彼らの子孫にとっても、自らのルーツをたどる絶好の資料といえるでしょう。

このほか、写真帖には、家を建てる様子、農作物の収穫や運搬、豚のと殺、日本人移民が営む商店や薬局の様子、小学校の授業風景、子どもたちの剣道の試合や遠足など、移民の日常を映し出した写真が数多く収録されています。これらの写真を通じて、文字資料だけでは捉えきれない、ブラジル移民の臨場感あふれる生活史に触れることができます。

## ガラス乾板のデジタル化

これらの写真の撮影には、ガラス乾板が用いられました。ガラス乾板とは、写真フィルムが普及する以前に用いられていた感光材料です。当館が購入した『在伯日本移民歴史調査記録』には、調査表と写真帖のほかに、写真帖の写真の元になった1,500枚以上のガラス乾板が含まれています。

ガラス乾板は、解像度が高く画質に優れていますが、重くてかさばりやすく、割れやすいという欠点があったため、やがて写真フィルムに活躍の場を奪われていきました。しかし、近年、過失に蓄積されたガラス乾板をデジタル化し、歴史資料として活用する動きが広がりつつあります。

当館においても、未整理のままとなっていた『在伯日本移民歴史調査記録』のガラス乾板を広く利用に供するため、令和2(2020)年度にデジタル化を行いました。令和3(2021)年度末に、国立国会図書館デジタルコレクションで公開し、憲政資料室だけでなく、東京本館、関西館、国際子ども図書館のどの利用者端末からでも見られるようになりました。当館においてガラス乾板からのデジタル化を行ったのは、この『在伯日本移民歴史調査記録』が初めてです。手探りの

状態からのスタートだったため、東京大学史料編纂所など他機関の先行事例に学んだり、専門家の方から助言を受けたりしながら、デジタル画像の作製方法や、デジタル化後のガラス乾板の保存方法などについて仕様を固めていきました。通常の紙の資料からのデジタル化よりも高い解像度が必要であったり、紙の資料のように上下に重ねて保存できないため縦置きでの保存箱を用意したりと、ガラス乾板ならではの難しさがありました。

また、ガラス乾板の中には、ガラスが破損していたり、乳剤が剥離して元の画像が一部失われてしまったものが含まれていたため、これらのガラス乾板については、デジタル化をする前に、ガラス乾板と同じサイズの透明なガラスを貼り合わせる保護措置を講じました。

ガラス乾板のデジタル画像は、グレースケール画像ではなく、カラー画像で作製しています。単にガラス乾板に写っている画像をデジタル化するだけであれば、カラー画像よりデータ量が少なくてすむグレースケール画像でもよかったのですが、カラー画像の方が、セピア色の画像を再現できたり、ガラス乾板の劣化状況を含め、より多くの情報を記録できるためです。



## ガラス乾板

感光乳剤を透明なガラスの支持体に塗布した感光材料。写真乾板ともいう。19世紀後半に発明されて以降、後に写真フィルムが普及するまで半世紀以上にわたり広く用いられた。原理は写真フィルムと同じであり、支持体をガラスからフィルムに変えたものが写真フィルムである。





## ガラス乾板の保存

(右) ガラス乾板は1枚1枚縦置きにして保存箱におさめています。書庫で保管しています。

(左) 『在伯日本移民歴史調査記録』のガラス乾板の保存箱は全部で34箱です。



(右) ひび割れてしまったガラス乾板。  
(右下) ガラスの破片を復元し、上から透明なガラスを重ねて保護します。



(上下) 乳剤が剥離したガラス乾板。剥離は湿気などによって起こると考えられ、波打ったような剥離は残念ながら復元できません。

### ○参考文献

- 花木宏直 著「第二次世界大戦前のサンパウロ州ジュキア線における沖縄系移民の集住地域形成 1938～40年調査「在伯日本移民歴史調査表」を活用して」『移民研究』16号 2019.11<請求記号 Z71-N979>
- 石川友紀「大型コレクション『移民資料伯刺西爾（ブラジル）行移民名簿』などについて」『びぶりお 琉球大学附属図書館報』20巻3号 1987.9<請求記号 Z21-358>
- 丸山浩明 編著『ブラジル日本移民 百年の軌跡』明石書店 2010<請求記号 DC812-J243>
- 神屋信一「南米ブラジルよりの快信」『天界』13巻143号 1933.2 pp.116-120<請求記号 Z15-34>
- 「在伯日本移民歴史調査」『Natura 自然』1巻1号 1940 pp.112-113<請求記号 VE601-3>
- 久留島典子、高橋則英、山家浩樹 編『文化財としてのガラス乾板 写真が紡ぎなおす歴史像』勉誠出版 2017<請求記号 UL577-L14>

今回のガラス乾板のデジタル化により、写真帖の小さな紙焼き写真では確認が難しかった文字や被写体を、デジタル画像を拡大して確認することが可能になりました。これまで気づかなかった新たな「発見」につながるかもしれません。

当館では、ガラス乾板以外の調査表と写真帖についても、デジタル化と公開の準備を進めています。デジタル化をきっかけとして、今後、『在伯日本移民歴史調査記録』が、より多くの人に利用されることを願っています。

(利用者サービス部政治史料課 藤原夏人)

# 国立国会図書館で働いています

Season2

no.7

図書館がなくなっても資料  
がなくなるわけじゃない。  
僕らが遺さなければいけないのは資料



電子情報企画課課長補佐としてどんなお仕事をされていますか。

システム含めたデジタル関連事業の全体の総括、みたいな言い方になると思います。部の総括をする課長補佐として、計画を取りまとめたり、予算の要求や執行といったお金まわりの差配など、館の政策に応じて部門全体がうまく回るようにするのが仕事です。それとは別に、今特に注力していることとして、令和2年度と3年度の補正予算がついた資料デジタル化の推進と、令和3年6月に公布された改正著作権法への対応などがあります。

今大きく動いているデジタル化と、「個人送信」ですね。

今って10年ぶりくらいに、コンテンツ作成、つまり資料のデジタル化を補正予算でどんどん進めようという動きと、著作権法改正などの制度改正によってそのコンテンツを広く使ってもらおうという動きが、同時に起きているんです。文化庁と協力

しながら、たくさん関係者と話をして合意事項を取りまとめ、ようやく「個人送信」という形でサービスできることになりました。総括補佐になって4年目ですが、コロナ禍で仕事が激変した感じですか？

それはもう。コロナがあったから、もっとデジタル化を進めなきゃダメだ、著作権法の方もこのままじゃダメだと、いろんなところで声が上がりました。補正予算に当館の資料デジタル化の経費も計上されましたし、著作権法の改正も、国会でも取り上げられて、文化庁の検討も急ピッチで進んで、僕らの想定以上に

一気に動いた感じです。改正法の施行までの1年という短い時間の中で、どういう組立にするのか、どういう組立なら可能なのかも考えました。たとえば、今回の個人送信では既存の登録利用者制度を拡張する形にしたけど、それも決まっ

ていたわけではなくて、専用の登録制度を作るとかいろんな形が考えられるけど、コストや納期を考えるとこの制度を使うのが合理的、という判断の結果です。

システム改修も、システムのにも筋が良くて、コストを抑えられて、そして事務も簡便になる方法は何かが、それを実装するためにはいつまでに関係者との協議を終えていなければいけないのか、どういうメンバーシップでどう動かなければならない

## 福林 靖博 電子情報部 電子情報企画課課長補佐

平成14(2002)年4月 資料提供部 図書課 貸出係  
平成16(2004)年4月 主題情報部 参考企画課 情報サービス係(平成20年4月に情報サービス第一係長に)  
平成21(2009)年4月 総務部 情報システム課 システム第二係長  
平成24(2012)年4月 総務部 会計課 予算係(平成25年4月に予算係長に)  
平成27(2015)年4月 調査及び立法考査局 連携協力室 調査情報企画係長(平成27(2015)年7月に連携協力室課長補佐に)  
平成30(2018)年4月 電子情報部 電子情報企画課課長補佐

※令和3年12月27日インタビュー実施

(1)「第五期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画」。(2) 補正予算として、令和2年度45億円、令和3年度に37億円がそれぞれ措置された。(3) 絶版等により入手困難となっている資料を、図書館等に加えて個人にまで送信する。⇒26ページNDL Topics参照

のか、予算はどう確保するのか、全部考えて段取りを組む。もちろん、総務部門、利用者部門、システム部門など、たくさんの方と協力しながら。

制度設計の根幹ですね。めちゃめちゃ忙しかったのでは？

コロナ禍がはじまってから目まぐるしかったですね。あらゆるフェーズの案件が飛び込んでくるので複雑でした。本当に降って湧いたような感じで、2年(総括補佐を)やって、ルーティンは粛々とさばけるようになってたから対応できたっていうのはあります。

個人送信もいよいよ運用開始ですね。感慨深いですか？

5月19日からですね。ただ、登録業務の準備とか、システムの改修はまだ続いているので、気は抜けないですね。でも、それぞれ担当がいるから、僕としては「よろしく願います」みたいな感じではあります。

◆ ◆ ◆  
会計課予算係長時代はいかがでした

か？

財務省や国会への説明とかは主に上司がするんですが、数字を組み上げて説明資料を整えるのは係長の仕事なんです。だから面白かったですよ。ちょうど関西館の二期工事第一段階の予算を確保する時だったし。

えーっと、予算の面白さってなんですか？

予算って一つの造形美みたいなもので。

造形美！

現場がやりたいこと、館としてやらなければならぬこと、外からの国立国会図書館(NDL)に対する要望、いろいろあるじゃないですか。それらを全部まとめて、最後は数字で表現するわけです。混沌としたカオスみたいなところから、ピシッとした数字と説明を組み上げるという感じです。しかも、金額を枠の中に抑えなきゃいけない(笑)。

全てのリクエストには応えられないけど、NDLのこともNDLの外のことでも分かったうえで、バランスを見ながら、できるだけみんなが「こ

れならいいか」って思えるようなものを作る。

なるほど。システム系の人というイメージがありますけど、もともとそうだったんですか？

それは全然。パソコンをちゃんと使うようになったのは勤めはじめてから。

そうなんですか！

システムに初めて携わったのは、入館した時の図書課で、電子図書館基盤システムの導入を担当したんです。それなら「システム系の人」認定されちゃって。

そのあとの主題情報部には希望して行ったんですか？

希望しました。係長に中途採用でNDLに来た人がいたので、仕事のやり方とか勉強になるかなって。当時「仮想参考図書室構想」っていうプロジェクトがあって、既存のテーマ別調べ案内や主題情報データベースを見直そうということをやっていたんだけど上手くいってなくて。そこで、レファレンス担当用の掲示板

を最初に作って、その蓄積から知識を汲み上げて提供する仕組みを作ればいいんじゃないかという構想をぶち上げたんですよ。

ということは、リサーチ・ナビも福林さんが作ったんですか？

はい。当時の上司が「若い人に任せよう」と言ってくれて、検討チームを作って色んな人に助けてもらいました。ただ公開する1か月前に異動しているから、最後までは見えていないですけど、思い入れがありますね。

七十年記念館史編さんの際、既存のいろんなデータベースが一気にリサーチ・ナビに入っていくくんだり、ドラマチックに感じました。その後、情報システム課に行って、新しい基盤システムの導入を担当されてますね。



コロナ禍で、打合せの多くがオンラインになりました。

(4) 令和2年2月に竣工した書庫棟の工事。(5) 平成14年の関西館、国際子ども図書館全面開館にあわせ、既存のメインフレームではなく、オープンシステムで個別のシステムを統合した業務システム。(6) 調べものの窓口となるサイト、図書館資料、ウェブサイトを、各種データベース、関係機関情報を、特定のテーマ、資料群別に紹介する。平成21年5月から提供開始。

ちょうど電子図書館基盤システムを作り変えなければいけない時期で、予算が無い中でどうするか議論になっていたところに放り込まれました。パッケージソフトを導入することだけは決まっていたけれど、それだけで。

混沌とした中からいかにプロジェクトを立ち上げるか。仕事のやり方はそこで学んだ。リサーチ・ナビは規模が小さかったけど、こっちは何社も業者が入り、何十人も人が動いて。海外製のパッケージを使うことになったので、打合せが全部英語のこともありましたね。進捗報告会議には当時の長尾真館長も出ていたし。あれより怖いものはその後、ないですね(笑)。うまくいかなかったことも多いけど、キャリアの転換期だったと思います。今話してて思ったんですけど、カオスな状態の中でゴールを設定してそれに向けた段取りを組んで物事を進めていくことにアドレナリンが出るタイプみたいです。

英語は、海外旅行にたくさん行っていたから難なく対応できましたか？

いや、全然。基本的に語学はちゃんと勉強してなくて。でもバックパッカーをやっていたおかげか、英語は大したことないんだけど、コミュニケーションはとれてるんですよ、たぶん(笑)。

それで連携協力室でベトナムとの連携事業を担当されたんですね。全然違う文化、違うしきたりを持つところとのやり取りという観点では、旅行しておいてよかったです。

◆ ◆ ◆  
◆ ◆ ◆  
そもそもどうしてNDLに就職しようと思ったんですか？

大学で東洋史を専攻していて、もともとが研究者になりたかったんですけど、僕が大学院に進学する頃に、大学院生を大量にとるようになって、これは将来、あぶれるだろうなと。お金もなかったから、高校の先生にでもなろうかなという感じ。だから、公務員になるつもりもなかったんですよ。その時にたまたま、国立国会図書館というのがあったら、親戚から聞いて。

マネジメントするのが好き、というのは大学時代から？

いやいや、全然。でも、よく考えると、大学までサッカーをやっていたと、ゴールキーパーだったんです。ゴールキーパーって、自分あまり動かないんだけど、常に全体を目配りしてるんです。それに慣れるからか、基本的に1人余るのが好きです。

1人余る？

係長でも補佐でも、自分の仕事を極力減らして、基本みんなにやらせてもらって自分は全体と先を見る、そういうスタイルが好きで。飲み会や同窓会、勉強会でも幹事をやることが多いんですけど、中で飲んでワイツとやるよりは、人がワイワイしているのを見てそれを肴に呑む、みたいな感じですね。

ゴールキーパーと似てるわけですね。最後の最後まで守る。

今回の補正予算とか著作権法改正の対応では全然違うポジション取りなんですけど(笑)。



サッカーのユニフォーム。

バックパッカーって言うと、やっぱり沢木耕太郎の『深夜特急』に憧れてたんですか？

最初はそうですね。高校の時にドラマ版を見て、大学入ったらこれやろうって。

わかります！ 名著ですよ。何か国くらい行きましたか？

20とかそれくらいじゃないですか。同じところに行ったりしてると、数はそんなに多くないですよ。一番長かったのが、大学院の1年目にこの採用試験に受かって、半年間時間ができたので旅行に行ったんです。大学でシルクロードの勉強をしたこともあって、中国から行くだけ西に行こうと思ってたんですけど、9・11同時多発テロで中央ア

アジアに入れなくなっちゃって、途中であきらめて南に行くしかななくて、ヒマラヤを越えてインドとかに。そうそう、中国のカシユガルで出会った日本人と、半年後に同期として再会しました。

それは運命的ですね。今はもう全然行ってないですか？

もう全然。上の子が10才になったら、2人でインドに行こうって約束していて、パスポートをとったところでコロナ禍になり。

残念！ 国内は？

基本、出不精なんですよね。コロナ禍で拍車がかかって、家の周りを走ったりするぐらいです。

カメラもお好きとか。

写真は基本的に旅行先で撮ります。フィルムだから、気合い入れて撮らないと。

ところで、子育てとの両立はいかがですか？

配偶者（注…NDL職員）には迷惑をかけたっばなしで、これまでの仕事

は彼女の多大な協力の上に成り立っています。最近、彼女が忙しい部署に異動になって、今さらだけど、両立するとはどういうことが分かってきました。今は僕が早く帰ることも増えました。

早く帰るコツってなんですか？

手元のためすぎないことですかね。パッとやってパッと離したい。そのためにも、準備が大事。

◆ ◆

今後、NDLはどうあるべき、またどうなっていくらよと思えますか。

僕、NDLって「国立」あるいは「国会」の図書館なんだけど、それだけではなくて、日本にいる人と世界中の日本語を使う人のアーカイブなので、広く使えるようにしながらも、後世に遺していかなきゃいけない、と思ってるんですね。そのため日々渡されてきたバトンを少しでもいい状態にして次の世代に渡す、というのを考えていて。

むちゃくちゃ広い視野ですね。スパ

ンも長い。

歴史の勉強をしたり、旅行や勉強会でいるんな人と知り合ってきたからかもしれない。イスラエル国立図書館に行ったときに、彼らが自分たちの図書館のことを、「今ここに住んでいるユダヤ人とユダヤ人じゃない人だけのためのものではなくて、世界各地のユダヤ人のためのものもある」って言っていたのが印象的です。

この先どうなるかわからない状況で、日本語、日本の社会、文化って、我々自身が遺さないところにも遺らない。NDLの役割は国立国会図書館法で規定されてるんだけど、でも館法がなくなったからといって、図

書館がなくなるわけじゃない。さらに言えば図書館がなくなっても資料がなくなるわけじゃない。僕らが遺さなければいけないのは資料。時代にに応じて姿を変えていく資料を集めて遺していくためにあがいていくことが一番大事だと思いますね。



(上) 地元で10年以上主宰している勉強会の様子(コロナ禍でお休み中)。(下) ガンジス川にて。常設展示(現在のミニ電子展示「本の万華鏡」)や本誌でも、旅にまつわる企画、記事を執筆。



# 近代 日本人の肖像



令和4年2月、電子展示会「近代日本人の肖像」を9年ぶりにリニューアルしました。  
150名以上の人物を追加し、近現代に活躍した約750名、1,900点以上の肖像をご覧いただける  
ほか、肖像を様々な用途にご活用いただけます。実際にアクセスしてご覧ください。

インターネットでどなたでもご覧いただけます。

<https://www.ndl.go.jp/portrait/>







## 様々な資料にアクセスできます

提供している肖像は、国立国会図書館の所蔵する図書や雑誌などに掲載されているものです。国立国会図書館デジタルコレクションを通じ、肖像の出典であるデジタル化資料にもアクセスできます\*。

「関連資料」の欄からは、デジタル化された著作等をご覧ください。関連する歴史的音源・電子展示会など国立国会図書館の各サービスにもリンクしています。

\* インターネットからは資料の全ページが見られない資料や、国立国会図書館デジタルコレクションには掲載されていない資料もあります。

渋沢栄一のページ



肖像の出典へのリンク



関連資料へのリンク



## 様々な用途に利用できます

掲載している肖像は著作権保護期間を満了しています。書籍や雑誌、テレビのドキュメンタリー番組やクイズ番組、学校のレポートなど様々な用途に画像データをご利用いただけます。使用料は無料で、手続きの必要はありません。出典が国立国会図書館「近代日本人の肖像」であることを明記の上、ご利用ください。

※詳しくは電子展示会内の「ご利用について」をご覧ください。

〇〇町だより

郷土の偉人を紹介します



近代日本人の肖像より

利用イメージ

## スマートフォン等からもご利用いただけます



国立国会図書館では、「近代日本人の肖像」以外にも多くの電子展示会を公開しています。各コンテンツでは、国立国会図書館所蔵の様々な資料について、わかりやすい解説を加え紹介しています。

[https://www.ndl.go.jp/jp/d\\_exhibitions/](https://www.ndl.go.jp/jp/d_exhibitions/)

「文」と「書」は、どちらも私たちにとってなじみ深い基本的な漢字です。ところが、二つが合わさって「文書」という単語になると、とたんに硬質でシリアスな響きを帯びるようになります。それは、「文書」が、サスペンス映画などの中で、世界を揺るがす「極秘文書」として登場することが多いからかもしれません。

そんな「文書」を扱う文書係員としての私の一日は、スクリーンの中の大活劇と比べるとずっとずっと地味です。

たとえば、私の朝の仕事は、当館に届いた郵便物や小包の仕分けから始まります。当館へは、資料となる本や雑誌のほかに、職員宛ての手紙や書類などもまとめて届くため、宛て先を確認し、担当の部署に引き渡すのです。仕分けが終わると、今度は、当館から発送する郵便物や小包を回収し、料金の処理などを行います。

文書係が郵便関係の業務を担当していることを不思議に思われるかもしれませんが、郵便物などの中には、通知文や依頼文、回答文といった文書が入っているものもあります。そのため、文書の出入り口に文書係が立って、文書が円滑に行き来できるように交通整理をしているのです。

さて、そうして当館へ届いた文書の中には、所定の事項を登録し、公文書として体系づけられるものがあります。また、当館から外部へ発送する文書や、部署と部署との間で交わされる文書、催しの計画を記した文書などの案文は、責任者の確認を受ける「決裁」の手続きを経て、公文書として作成・保存されています。

館や部署全体の意思決定に関わる公文書の作成・保存は、様々なルールにのっとり注意深く行う必要があります。そして、こうしたルールが守られているかをチェックするのも、文書係の重要な仕事なのです。これまで決まりやルールに疎かった私には、覚えることがまだまだたくさんありますが、参考資料を片手に、文書の構成や用語などが間違っていないか目を光らせています。

こうして作成された公文書は、あるときは後の業務の参考資料として、あるときは後世からの検証に堪える業務の証拠として受け継がれていきます。「極秘文書」をめぐるスパイや刑事のようなスリルはありませんが、彼らに劣らぬ緊張感を持って、日々の業務に取り組んでいます。

(総務部総務課 木星)



## 「極秘」の任務？



# 本屋に

# ない

# 本



## 和歌山県人ブラジル移住 100周年記念誌

Centenário da imigração de  
Wakayama no Brasil

ブラジル和歌山県人会  
2019 389p ; 27cm

<請求記号 DC812-M71>

「ジャポネス・ガランチード」という言葉を「ご存知だろうか。ブラジルの日系人を表す言葉であり、直訳すると「信頼できる日本人」という意味である。明治末期から戦後にかけてブラジルに渡った当時の日本人の真面目さや働き者の様子が評価され、名づけられたそうだ。

日本人のブラジルへの移住が始まったのは1908年、明治時代である。8年後、大正時代に入って和歌山県もブラジルへ移住を開始し、戦前戦後を通して約1、600家族およそ6、000人を送り出した。

本書は、2017年「和歌山県人ブラジル移民100周年祭」の記念事業としてまとめられた。ブラジルを第2

の故郷として受け入れ、移民としての人生を全うした和歌山県人の歴史を綴った記念誌であり、100周年記念への各関係者からの祝辞や和歌山県人の歴史、そして和歌山県人会会員から寄せられた手記が記されている。全編にわたりポルトガル語と日本語が併記されているのも本書の特徴だ。

本書の見どころは、やはり第2章、第3章の和歌山県人会家族たちの手記であろう。県人会会員に自身の家族の両親や祖父母について何か書いて送るようお願いしたところ、最終的に30余名の手記が寄せられた。寄せられた手記からは、各々が経験した人生の臨場感、執筆者の息遣いを感じることができ

そこには、それぞれの家族が異なる文化や風習、そして時代の流れに翻弄されながらも強く実直に生き抜いた人生のドラマが描かれている。重労働や債務に苦しみ、時には家族間で諍いが起き、またマラリアで家族を失った者もいた。しかし、手記を寄せた執筆者やその家族は多くの犠牲を払いながら懸命に逆境を生き抜いてきた。

多様な人生が描かれながらも多くの家族に共通するのは、子孫を残し、ブラジルと日本の友好の懸け橋となっていることである。今ではブラジルで築き上げた家族の多くは5世代目に突入し、ブラジル社会の発展に貢献している。

本書のもう1つの見どころは、手記

とともにブラジル入植後や現在の家族写真、家系図、さらには趣味の俳句・短歌が添えられていることである。そこからは家族が増えたことの喜びや、日本の祖先や文化を異国の地で今も大切に思い続けている様子が窺える。

世代は代わっても日本人の持つ正直・勤勉・真面目といった美德は親から子、子から孫へと連綿と受け継がれ、今もブラジル社会に影響を与え続けている。本書のページをめくりながら、移民が「ジャポネス・ガランチード」という信頼の遺産をブラジル社会に遺してくれたことに感謝しつつ、人生を掛けて海を渡った当時の日本人に思いを馳せてみるのはいかがだろうか。

(岩下詩帆)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

# NDL Topics

## 「個人向けデジタル化資料送信サービス」の開始について（令和4年5月19日予定）

国立国会図書館は、「個人向けデジタル化資料送信サービス」（略称「個人送信」）を令和4年5月19日から新たに開始します。

これは、令和3年6月2日に、著作権法の一部を改正する法律（令和3年法律第52号）が公布されたことによるものです。この改正により、国立国会図書館はデジタル化した資料のうち絶版等資料をインターネット経由で個人に送信できるようになりました。法改正の背景には、デジタル化・ネットワーク化への対応とともに、コロナ禍により、当館や公共図書館、大学図書館等に来館せずに利用できるデジタル化資料へのニーズが、研究者・学生等の個人から高まったことがあります。

### ○サービス概要

当館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難なものを、利用者ご自身の端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）等を用いてインターネット経由で閲覧できるサービスです。国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp/>）で資料の本文画像を閲覧できます。サービス開始当初は閲覧のみですが、令和5年1月を目途に印刷機能の提供を開始する予定です。

### ○利用できる資料

国立国会図書館デジタルコレクションで提供している資料のうち、絶版等の理由で入手が困難であることが確認された資料（著作権者等の申出を受けて、3か月以内に入手困難な状態が解消する蓋然性が高いと当館が認めたものを除く。）が対象です。具体的には、「図書館送信資料」約153万点（令和4年1月時点の範囲内の資料で、昭和43年までに受け入れた図書約56万点、明治期以降の貴重書等や清代後期以降の漢籍等約2万点、明治期以降に発行された雑誌のうち、刊行後5年以上経過したもので、商業出版されていないもの約1万タイトル（約82万点）などが対象となります。

※対象資料の詳細については、国立国会図書館ホームページ▽資料・情報の利用▽他の図書館でのデジタル化資料の利用▽図書館向けデジタル化資料送信サービスの「利用できる資料」をご覧ください。

### ○利用できる方

国立国会図書館の「個人の登録利用者」のうち、日本国内に居住している方が対象となります。サービスの利用には個人送信の利用規約に同意していただく必要があります。

※利用者登録については、国立国会図書館ホームページ▽利用者登録▽国立国会図書館の利用者登録についての「個人の登録利用者」になるには」をご覧ください。

### ○問合せ先

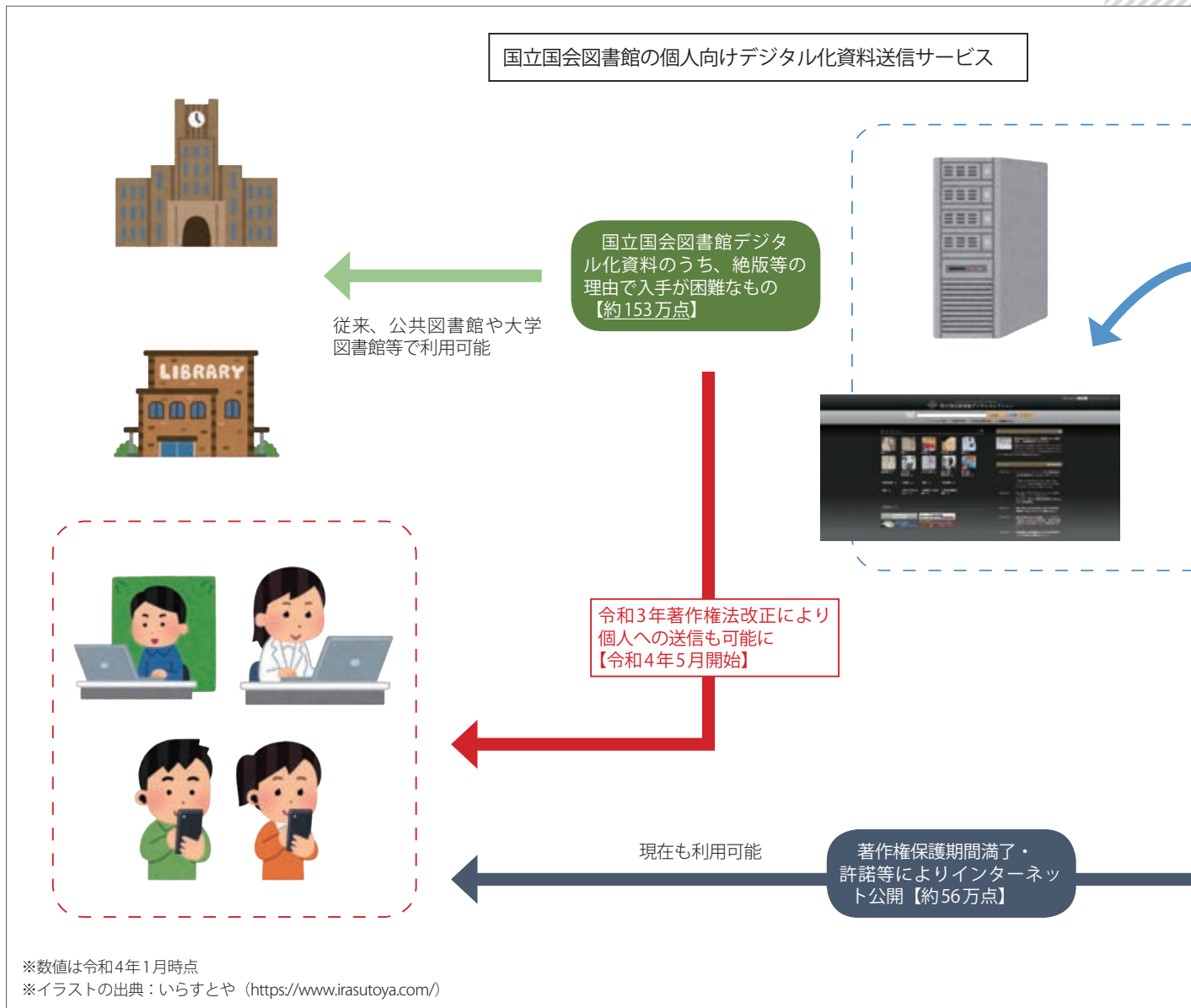
利用者サービス部サービス企画課  
03（3581）2331（代表）

蔵書  
デジタル化



国立国会図書館

# NDL Topics



<参考：国立国会図書館所蔵資料のデジタル化の状況（令和4年1月時点）>

資料種別	インターネット公開 (著作権保護期間満了等)	送信 (絶版等資料)	国立国会図書館 館内限定 (その他)	合計
図書	36万点	55万点	8万点	99万点
雑誌	2万点	82万点	51万点	134万点
論文	2万点	13万点	2万点	16万点
その他	18万点	4万点	9万点	30万点
(合計)	56万点	153万点	71万点	279万点

(端数処理のため合計が一致しない場合があります。)

# NDL Topics

## 資料のデジタル化に伴う原資料の利用休止について

国立国会図書館では、所蔵資料の保存と利用の両立を図るためデジタル化による媒体変換を行い、作業が終了した後は、原資料に代えてデジタル化資料を提供しています。このデジタル化作業のため、次のとおり一部の資料の利用を休止します。

### 利用休止予定期間

令和4年4月11日～令和5年5月31日

・東京本館所蔵の和図書 約35万冊

(昭和44年1月から平成7年12月までに整理された和図書の一部)

※対象資料は順次利用を休止します。ご利用いただけない資料は、国立国会図書館オンラインの書誌詳細画面の所蔵一覧で、「作業中 デジタル化のため」の表示でお知らせします。事前に検索してご確認ください。

※詳細については 国立国会図書館ホームページの資料の保存▽資料デジタル化について▽デジタル化作業に伴う原資料の利用休止について に掲載しています。

ご不便をおかけしますが、国民共有の文化的資産を後世に伝えるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 新刊案内

### レファレンス 854号

法律の一般性原理といわゆる「処分的法律」について

在日米軍によるオスプレイの配備と訓練活動 経緯と現状

人・農地プランの展開―集落機能を活用した農業者・農地の将来設計―

高齢化の進展に伴う空き家の増加と固定資産税―地方自治体による税率設定状況に注目して―



A4 107頁 月刊 1,100円(税込)  
発売 日本図書館協会

### 入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104・0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

## おもな人事

△異動▽※( )内は前職

令和4年2月1日付け

総務部長事務取扱を解く(副館長 総務部長事務取扱)

片山 信子

総務部長、収集書誌部長兼務(収集書誌部長)

山地 康志



# 27  
東京本館 南口の桜

# 4

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2022.4

NO.732  
APRIL  
2022

## CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>  
*Kain'okajo*—Cherry blossoms by HIROSE Kain, a painter of the Mikuma school
- 06 Protecting our books—Tools for preservation and restoration (final installment)  
(4) Examining
- 12 *Zaihaku nihon imin rekishi chosa kiroku*—Digitization of glass plates
- 16 Working at the NDL, Season 2 Episode 7
- 20 Digital exhibition “Portraits of Modern Japanese Historical Figures”
- 24 <Tidbits of information on NDL>  
“Top secret” mission?
- 25 <Books not commercially available>  
*Wakayamakenjin burajiru iju 100shunen kinenshi*
- 26 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和4年4月号 (No.732)

令和4年4月1日発行

発行所 国立国会図書館  
編集者 松浦 茂  
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp  
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2 0 2 2 . 4

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士